

学習指導計画作成上の留意点

(第○学年○組) 体 育 科 学習指導案

↑

保健体育科

※ 小学校の場合の「学年・学級名」記入位置

令和○年○月○日 (○) 第○校時 活動場所

※ 中・高等学校の場合の「学年・学級名」記入位置 → (第○学年○組) 男子○○名 女子○○名 計○○名
指 導 者

1 単 元 名……主として指導する種目や運動の内容をまとめたものを記入する。

※ 小学校の場合 ・教材名 (領域の内容名)

※ 中・高等学校の場合 ・領域選択の場合「選択させる領域名」(自分が担当する運動種目等)
・運動種目等選択の場合「領域名」 (自分が担当する運動種目等)

2 運 動 の 特 性……具体的な単元の目標と内容を導き出す手がかりとする。

(1) 一般的特性

欲求の充足あるいは必要を充足する機能を中心に捉え、児童生徒にとっての種目の一般的な魅力(機能的特性)を明らかにする。

(2) 児童生徒から見た特性

児童生徒の実態を踏まえ、学習する児童生徒にとって、どこが楽しいか、遠ざける要因は何か、どんな楽しみ方ができる運動かを明らかにする。

3 児童生徒の実態

(1) 知識及び技能

(2) 思考力、判断力、表現力等

(3) 学びに向かう力、人間性等

4 教師の指導観

(1) 知識及び技能

(2) 思考力、判断力、表現力等

(3) 学びに向かう力、人間性等

5 単 元 の 目 標

単元の学習を通して、学習指導要領に示されている目標及び内容〔知識及び技能〕〔思考力、判断力、表現力等〕〔学びに向かう力、人間性等〕から児童生徒をどのように変容させるか、目指していることを簡条書きで示す。

※ 文末は、「～できるようにする。」と表記する

6 単元の評価規準

国立教育政策研究所教育課程研究センター「学習評価の在り方ハンドブック」, 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」, 「埼玉県小学校・中学校教育課程指導・評価資料」等を参考に各学校で作成した単元の評価規準を示す。(三つの観点【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の「おおむね満足できる」状況の評価規準として示す)

(例)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	① ② ③	① ②	① ② ③

7 単元の計画 ※ 書き方の詳細は、各校種の学習指導案例を参照

(1) 領域の取り上げ方

(例)	運動 / 学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
	走・跳の運動、陸上運動	20時間	20時間	16時間	16時間

(2) 領域の内容(運動種目)と目指す動き

(例)	学年	内容	目指す動き
	5	ハードル走	40mハードル走で、第1ハードルを決めた足で踏み切って走り越えること
	6	ハードル走	40mハードル走で、自分に合ったインターバルで、3歩または5歩のリズムで走り越えること

※ 中・高等学校は3年間、小学校は2年間又は4年間で示す。(6年間で可)

高等学校の「7(3)指導と評価の計画」においては、「5 単元の目標」,
「6 単元の評価規準」を一体とした内容とする。
(詳細は高等学校指導計画例 P41 を参照)

(3) 指導と評価の計画 (8時間扱い) 本時は○印 4/8時

時間	1	2	3	④	5	6	7	8
ねらい	※ 単元の明確なゴール像(目標や内容「何を学ぶか」、資質・能力「何ができるようになるか」など)を明確にした上で、各時間のねらいを設定し、記入する。							
指導内容	※ 各時間のねらいに沿った指導内容や、単元のゴール像に向けて各時間で必要となる指導内容について記入する。							
学習過程	0分	オリエンテーション	(例) 1 集合、挨拶、健康観察 2 前時の振り返り 3 準備運動 4 学習の場づくり、用具の準備 5 感覚づくりの運動 6 本時のねらいや学習内容等の確認 7 課題解決 8 成果の確認(記録会、発表会、ゲーム等) 9 自己評価、相互評価 10 整理運動、片付け 11 学習の振り返りとまとめ ※ 授業で教えるべきことを明記する。 ・「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、 「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく配置する。 ・「共通に指導すること」と「児童生徒が自主的・主体的に学ぶこと」を明確にする。					
	45(50)分							
評価計画	知・技		① ②	① ③			②	③
	思・判・表					①	②	
	態	②			①			③
	方法	観察	観察、カード	観察	観察、カード	観察、カード	観察、カード	観察、カード
	場面	6, 7	7, 8, 9	7, 8	5, 7, 8	7, 9, 11	7, 9, 11	7, 8

※ 評価計画には、「6 単元の評価規準」の番号と評価方法を記す。また、評価する場面の番号も記す。

※ ここでの評価は、1単位時間毎の「ねらい」に正対した振り返りとまとめを行い、それを受けて次時につなげていく評価である。
1単位時間の「学習評価の観点」は、原則一つとし、適切に評価できるようにする。また、努力を要する状況の児童生徒に具体的な手立てを講じるとともに、必要に応じて、単元終了時まで指導と評価を繰り返すことが大切である。

8 本時の学習と指導 (4/8時)

- (1) **ねらい**……単元の目標に即して、本時で児童生徒に身に付けさせたいことを明確にし、どんな活動ができればよいか、学習の進展状況を踏まえて具体的に示す。文末は「～できるようにする。」と表記する。
※文の後に付ける〈 〉は育成を目指す資質・能力の三つの柱から該当するものを表記する。
- (2) **準備**……本時に使用する教具、用具、資料等を示す。
- (3) **展開**……導入から展開・整理へと、児童生徒の楽しさを追求する活動を中心に書く。その楽しさを「本時のねらいの達成」という確かなものにするために、教師が個人・グループやチーム・全体等に何を指導し、どのような点に留意していくかをより具体的に明確に示す。

段階	学習内容・活動	指導上の留意点 (○指導 ◆評価規準)
導入 (○分)	(例) 1 集合、挨拶、健康観察 2 前時の振り返り 3 準備運動 4 学習の場づくり、用具の準備 ※ 本時のねらい、活動の見通し、準備等を示す。 ・前時の学習を振り返り、学習ノートの記述等から本時の学習の意欲付けを図る。	※ 本時の学習を円滑に進めるための留意事項を具体的に示す。 ・健康上注意を要する児童生徒の健康状況と指導上の留意事項 ・準備運動で特に関心する運動とその行い方、配慮する児童生徒、学習集団等の特徴等
	(例) 5 感覚づくりの運動 6 本時のねらいや学習内容等の確認 7 課題解決 8 成果の確認 ・記録会、発表会等 9 自己評価、相互評価 ※ 児童生徒が、本時のねらいの達成のために、各自(グループやチーム)の課題の解決に向け、どのように学習活動を展開するかを、図や絵等も入れ具体的に示す。	※ 全ての児童生徒に指導する内容を明確にし、指導上の留意点を示す。 ※ 一人一人の児童生徒が、本時のねらいを達成することができるように、教師が指導、助言、配慮することを具体的に示す。 ・各自(グループやチーム)の課題のめとせ方、確認の仕方、解決の仕方、修正の仕方 ・全員(グループやチーム、個人)が、気付いたり理解できたりするための指導すべき内容 ・役割や活動の仕方について、各場面で指導するポイント ・活動中の個人、グループやチームに対する働きかけについての留意点 ・技能のつまづきを予想し、それに対する指導のポイント ◆単元の評価規準【観点】 「7(3)の評価計画」に基づき、「6 単元の評価規準」で示したものをそのまま記す。 指導と評価が一体となるように、 「△努力を要すると判断される状況(C)の児童生徒への指導の手立て」 「◎十分満足できると判断される状況(A)の児童生徒の具体的な姿」 を示し、評価を次の指導に生かす。
整理 (○分)	(例) 10 整理運動、片付け 11 学習の振り返りとまとめ ※ 各自の学習を振り返る。 ・成果や課題、気付きを発表する ※ 本時の評価をもとに次時の学習への意欲に結び付けよう、教師が振り返りの評価をする。 ※ 児童生徒の言葉を生かしまとめる。	※ 本時の学習を振り返るに当たっての留意事項を具体的に示す。 ・整理運動、用具を片付ける上での留意点 ・本時のねらいに正対した振り返り、それを受けた評価の仕方、まとめ方についての要点 ・本時の学習の成果と課題を踏まえ、次時の予告や今後の見通し

9 資料……本単元(本時)で使用する学習資料、学習カード等を添付する。